



パネリスト



原 梓

【プロフィール】

2006年東北大学大学院薬学研究科博士前期課程修了。
現在同研究科博士後期課程2年。
専門は疫学、臨床薬学。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

サイエンスエンジェルでの活動は、女性研究者や女子大学院生と出会うことができ、「女性研究者っておもしろいな」と、とてもよい刺激になっています。

コーディネーター



大隅 典子

【プロフィール】

1988年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了。歯学博士。1988年同大学歯学部助手、1996年国立精神・神経センター神経研究所室長を経て、1998年より東北大学大学院医学系研究科教授。2004年10月より科学技術振興機構CREST「ニューロン新生の分子基盤と精神機能への影響の解明」研究代表者を務める。専門は発生生物学、分子神経科学。
著書に『神経堤細胞』（共著、東京大学出版会、1997年）、人体発生学（分担、南山堂、2003年）、訳書に『心を生みだす遺伝子』（岩波書店、2005年）、『エッセンシャル発生生物学 改訂第2版』（羊土社、2007年）などがある。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

「好きなことに打ち込もう！」

総司会



久利 美和

【プロフィール】

1997年 筑波大学地球科学研究科博士後期課程修了。理学博士。
1997年 筑波大学ベンチャービジネスラボラトリー非常勤研究員。
1999年 地質調査所科学技術振興事業団特別研究員。
2002年 東北大学理学研究科研究支援員 などを経て、
現在、東北大学特定領域研究推進支援センター助手として
「社の都女性科学者ハードリング支援事業」に従事。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

学会託児室の立ち上げなどにご尽力された先輩女性研究者の方へのお礼の気持ちを込めて、若手研究者の育成にあたりたいと思っています。

東北大学 女性研究者育成支援推進室

<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/index.html>



連絡先

東北大学 特定領域研究推進支援センター事務室

TEL:022-217-5912 FAX:022-217-5914

E-mail:cress-mh@bureau.tohoku.ac.jp

文部科学省科学技術振興調整費 東北大学「社の都女性科学者ハードリング支援事業」
21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」

東北大学女性研究者 交流フォーラム

2007年 **6/9** [土] 13:00~17:00

主催：東北大学

後援：内閣府男女共同参画局、宮城県、仙台市

仙台国際センター2階 大会議室「萩」

開会 13:00~14:00

- 1) 開会挨拶 井上 明久氏(東北大学 総長)
- 2) 来賓挨拶 梅原 克彦氏(仙台市長)
森口 泰孝氏(文部科学省 科学技術・学術政策局 局長)
- 3) 平成19年度サイエンス・エンジェル任命式

第1部 基調講演 14:00~15:00

郷 通子氏(お茶の水女子大学 学長)
今井 通子氏(株式会社 ル・ベルソー 代表取締役社長)

第2部 パネルディスカッション 15:20~16:50

「女性研究者がもっと輝くには？」

- パネリスト**
- 生田久美子氏(東北大学大学院教育学研究科 教授)
 - 高橋 富男氏(東北大学高度技術経営人財キャリアセンター 副本部長)
 - 矢野 恵美氏(東北大学国際高等融合領域研究所 助教・21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」フェロー)
 - 星野 由美氏(東北大学高度技術経営塾 第一期塾生)
 - 原 梓氏(東北大学サイエンス・エンジェル)

コーディネーター 大隅 典子氏(東北大学総長補佐、男女共同参画担当)

閉会 16:50~17:00

閉会挨拶 野家 啓一氏(東北大学 副学長、女性研究者育成支援推進室長)

東北大学は日本で初めて1913年に女子学生を誕生させた大学ですが、学生から教員まで含め、女性比率は約5%から25%に留まっており、女性の力が十分に活かされていないという現状です。

そこで、本学で実施されている文部科学省振興調整費による「社の都女性科学者ハードリング支援事業」および21世紀COEプログラム「男女共同参画の法と政策」との連携により、自然科学系と人文社会系の枠を超えた女性研究者の交流を深めることを目的として「東北大学女性研究者交流フォーラム」を開催致します。

素晴らしいキャリアをお持ちの講師のお二人に基調講演を頂くとともに、女性研究者のキャリアパスという観点から、文部科学省基盤政策課「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」による「高度技術経営人財キャリアセンター」にもご協力頂き、女性の活力を生かすための具体策について討論を行います。

基調講演



講演タイトル

「女性研究者が輝くとき」

郷 通子 (お茶の水女子大学学長)

【プロフィール】

1967年名古屋大学大学院理学研究科修了。理学博士。1973年九州大学理学部助手、1989年名古屋大学理学部教授、2003年長浜バイオ大学バイオサイエンス学部長を経て2005年より現職。日本生物物理学学会会長、文部科学省科学技術・学術審議会委員などを歴任。現在は日本進化学会会長、文部科学省中央教育審議会委員、日本学術会議第20期会員、総合科学技術会議議員。専門は生物物理学、生命情報学、予測生物学。主な邦文著書に「基礎と実習 バイオインフォマティクス」(編集・分担、共立出版、2004年)、「分子進化の階層性:モジュールシャプリング仮説」ニューバイオフィジックス(シリーズ2)生命の起源と進化の物理学(分担、共立出版、2002年)、「構造から機能を探る」プロテオミクスの基礎(分担、講談社、2000年)等がある。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

「学問に王道なし」と同じく、女性研究者の生き方は多様です。女性の力を活かせる日本社会のあり方が、今、問われていると思います。研究者の置かれている環境を客観的に分析することをスタートに、女性も男性も輝いて研究に打ち込める施策が、組織の様々な場面で求められています。「女性研究者が輝くとき日本の未来が見える」のではないのでしょうか。日本で最初に女性の入学を許可した東北大学は、女性研究者を輩出する時代の先頭を切るにふさわしい大学です。たくさんの優れた女性研究者が東北大学から育っていくことを、ここから期待しています。



講演タイトル

「私の挑戦 ～自由にそして健康に生きる～」

今井 通子 (株式会社ル・ベルソー 代表取締役社長)

【プロフィール】

1942年東京都生まれ。1966年東京女子医科大学卒業。医学博士。2007年3月まで東京女子医大腎臓総合医療センター泌尿器科非常勤講師を勤める。東京女子医科大学在学中に山岳部に入部し、登山を始める。1967年女性パーティーとして世界初、欧州アルプス・マッターホルン北壁登攀に成功。69年アイガー北壁、71年グランドジョラス北壁と、女性初の欧州三大北壁完登者となる。79年ネパールヒマラヤ・ダウラギリのⅡ、Ⅲ、Ⅴ峰縦走登山隊長として男性16名を率いてクロス縦走を成功させる。85年チョモランマ峰北壁に挑み、冬期世界最高到達点を記録。71年より始め、現在も国内外のトレッキングツアー講師を勤め、また、講演・執筆活動などもこなす。著書は「山は私の学校だった」(山と溪谷社)など多数。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

家族は夫一人、娘一人、離婚歴未だ無し、この春大学を定年退職した私から若手女性研究者・予備軍の皆様への一言メッセージとしては、感性をベースに科学的裏付けを学び、研究し、導き出し、人より自分も含めたヒトの快楽を探り続ける好奇心とチャレンジ精神を持つと飽きないかも。パートナーは、ヒトとして自立した人を選べば、出産は無理でも子育ては共同作業。職場では、女性だからと遠慮、卑屈、甘え、傲慢にならず、志を一にする同僚と協調し、休みはヒトの生理機能を活性化してくれる自然界を住処にしたら。以上です。

パネリスト



生田 久美子

【プロフィール】

東北大学大学院教育学研究科人間形成論講座教授。専門は教育哲学、認知教育学。1979年慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程単位取得退学。杉野女子大学家政学部教職課程教授を経て、2000年より現職。主要著書・論文に「『わざ』から知る」認知科学選書14東京大学出版会1987、「実践のエスノグラフィー」(共著)金子書房2001、「子どもたちの想像力をはぐくむ」(共著)東京大学出版会2003、「ジェンダーと教育」(編著)東北大学出版会2005、「『教育』を問う教育学」(共著)慶應義塾大学出版会2006、「もう一つの声」(共訳)C.ギリガン著 川島書店1986、「スクールホームー「ケア」する学校」(監訳・解説)J.R.マーティン著 東京大学出版会2007などがある。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

若手女性研究者育成のためには、制度的な整備の一層の充実とともに、心理的な阻害要因の排除についても考慮しなければならないと思っています。



高橋 富男

【プロフィール】

1964年東北大学工学部金属工学科卒業。非鉄金属企業にて研究開発、製造部門、新規事業企画、研究開発マネジメント部門を歴任。1996年子会社(社内ベンチャー)を設立し1999年代表取締役社長。2003年工学博士(東北大学)。2004年東北大学客員教授、研究推進・知的財産本部本部長代理、2006年より産学官連携推進本部副本部長。専門は、研究開発マネジメント、新事業企画、経営工学。著書に「新商品開発マネジメント」(共著、日科技連出版社、1997年)、「現状打破・創造への道」(共著、日科技連出版社、1997年)などがある。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

我が国でもイノベーションが叫ばれて久しいが、そのための強力な推進役である産学連携分野で活躍している女性も増えてきている。女性に限らず、自身が修得した専門を社会にいかしたい分野を決めて、そこに至る応用知識や技術も修得した幅の広い人材が期待される。



矢野 恵美

【プロフィール】

慶應義塾大学法学部卒。早稲田大学法学研究科修士課程修了。スウェーデンストックホルム大学大学院犯罪学客員研究生。慶應義塾大学法学研究科博士後期課程退学。武蔵野大学非常勤講師、慶應義塾大学非常勤講師。2004年度より東北大学ジェンダー法・政策研究センター研究員(フェロー)。2007年度より東北大学国際高等融合領域研究所助教。「スウェーデンにおけるドメスティック・バイオレンス対策一男女共同参画推進とDVに関する一考察」で2005年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)受賞。専門は刑事法、北欧法、被害者学、ジェンダー法学。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

男女による学問の向き不向きはないと思います。「好きこそ物の上手なれ」です。ただそれには女性も男性も自分が興味のある分野を性別に関係なく研究できるような土壌を作っていくことが重要だと思います。



星野 由美

【プロフィール】

2006年東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了。農学博士。東北大学高度技術経営塾第一期塾生。学術振興会特別研究員を経て、現在は東北大学大学院農学研究科博士研究員。専門分野は生殖生物学・発生工学。

【若手女性研究者・予備軍への一言メッセージ】

女性研究者が能力を最大限に発揮するためには、研究活動を継続できる仕組みが必要です。大学は将来の方向性を考える場であるため、大学が女性の活躍の場を確保し、整備していくことが、女性研究者の育成に繋がると考えます。